

本庁舎建設に向けての これまでの取組みについて

宇部市



本庁舎の建設年の状況

いつごろ建てられたの？

別館
昭和62年

傍聴室棟
昭和36年

議場棟
昭和33年

高齢者
総合支援課
平成11年

東棟
昭和55年

西棟
昭和52年

本棟 1～3階
昭和33年

本棟 4階
昭和46年



耐震診断の現状

傍聴室棟

Is値0.70～2.07

倒壊,崩壊の危険性 低い

議場棟

Is値0.20～5.98

倒壊,崩壊の危険性 高い

東棟

Is値0.19～0.49

倒壊,崩壊の危険性 高い

西棟

Is値0.65
～3.36

倒壊,崩壊の危険性 低い

本棟 1～3階

Is値0.30～0.48

倒壊,崩壊の危険性 ある

本棟 4階

Is値0.054～0.095

倒壊,崩壊の危険性 高い

Is値0.6未満では、
震度6～7程度で倒壊等の危険性あり！

本庁舎の課題

耐震性

防災拠点機能

スペース

バリアフリー

不十分



宇部市新庁舎建設検討協議会

行政

本庁舎建設にかかる基本的な考え方
(素案) 平成26年4月

建設場所

建設規模

機能

建設手法

資金計画

時期



新市庁舎建設促進特別委員会

議

会

報告書 平成26年6月

新市庁舎建設の必要性

新市庁舎の規模と機能

新市庁舎の建設手法と財源

議 会 施 設



宇部市本庁舎建設検討市民委員会

市 民

関係団体の代表者、
市民委員、学識経験者 51人

建設の必要性、基本理念
市民利用としての機能、位置など

提言書 平成26年12月

市に提言

宇部市の目指すまちづくり

宇部市にぎわいエコまち計画（平成27年3月）

- ◆ 多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換
- ◆ エネルギー利用のスマート化
- ◆ 市の顔としての中心市街地の魅力向上



重点整備地区

- 宇部新川駅周辺地区
- 市役所周辺地区
- 中央町三丁目地区

重点整備地区



方針の決定

行政

「基本的な考え方」

市民

「提言書」

議会

「報告書」

平成27年3月

基本構想

基本理念

つながって みんなでつくる 無駄がなく 美しい 市民自治の拠点

方針決定

本庁舎は、早急な建替えが必要

「現在地及びその周辺」での建替えが現実的

7つの コンセプト

①明るく、市民が
利用しやすい庁舎

②機能的で事務効率が
高く、無駄のない庁舎

③市民の交流を生み、
市民の活動を支える
庁舎

④市民の安心・安全
を支える庁舎

⑤議会を身近に
感じる庁舎

⑥経済性に優れ、
環境に配慮した庁舎

⑦まちづくりの拠点
としての庁舎

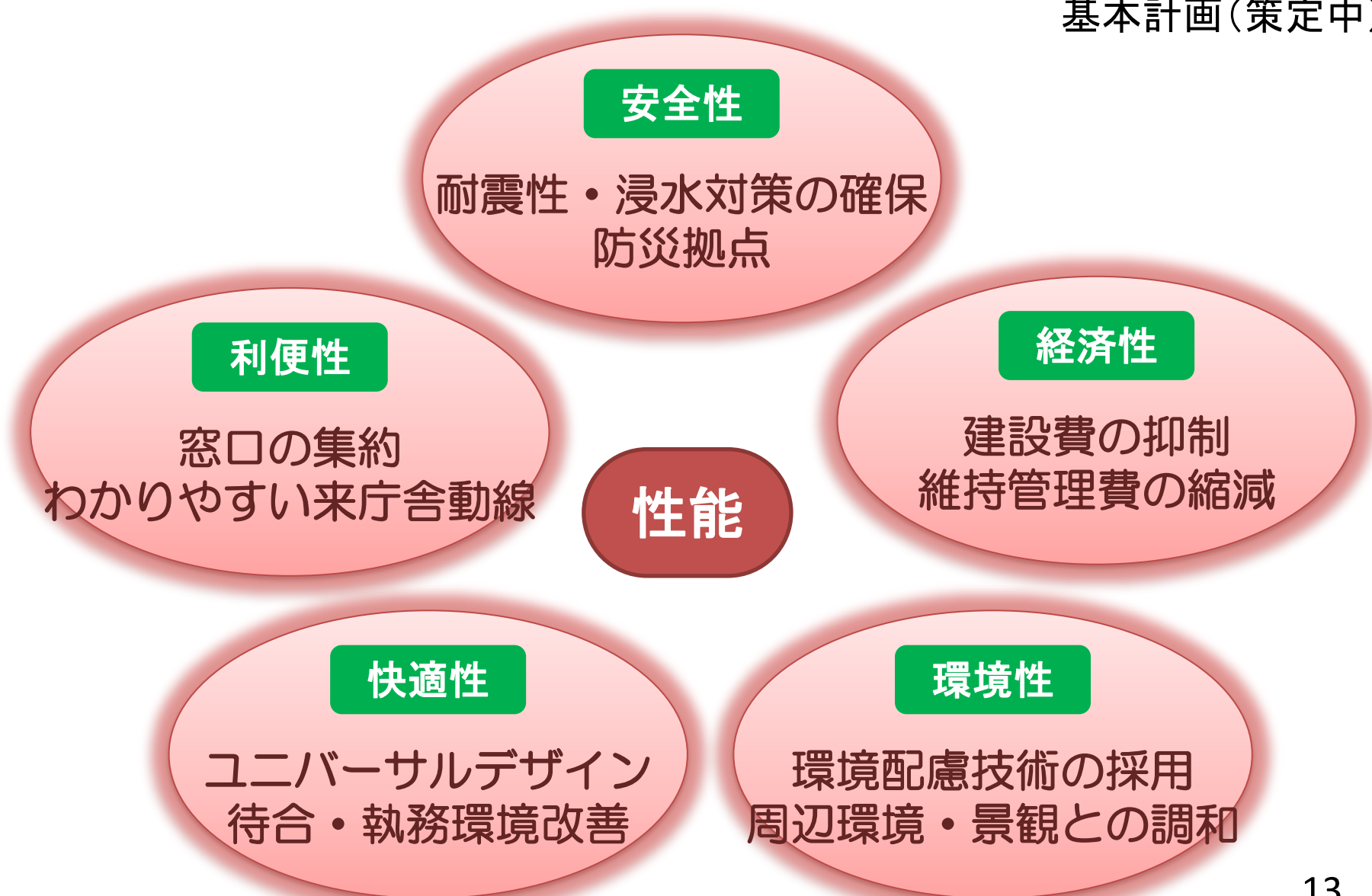
まちづくりにおける新庁舎の役割

基本計画(策定中)

- ◆ “緑と花と彫刻のまち”宇部の美しさを感じまちづくりを先導する場であること
- ◆ 市民交流・協働を支え、宇部市民みんなに愛され、つくりあげられる場であること
- ◆ 無駄がなく、時代の変化に対応しながら快適で安全に使い続けられる場であること

新庁舎に求められる「性能」

基本計画(策定中)



新庁舎に求められる「機能」

基本計画(策定中)

議会機能

市民とつながる
「市民に開かれた議会」

窓口機能

市民だれもが訪れやすく
利用しやすい窓口

執務機能

職員が快適で効率的に
働ける執務空間

機能

市民活動支援機能

市民活動を支援し
市民自らがつくる交流の場

防災機能

市民の安心・安全を
支え続ける防災拠点

まちづくり拠点機能

「緑と花と彫刻のまち」を
先導する 市民の憩いの場

① 窓口機能

市民だれもが訪れやすく、
利用しやすい窓口

- 総合窓口の導入
- 相談用窓口の充実
- キッズスペースや授乳室
- ユニバーサルデザイン
- 将来の市民ニーズに柔軟
に対応できる空間設計



プライバシーに配慮した相談コーナーの事例
(刈谷市庁舎)



キッズスペース イメージ

機能② 市民活動支援機能

市民活動を支援し、
市民自らがつくる交流の場

- 情報発信コーナー
(図書コーナー・展示ギャラリーなど)
- 多目的ホール



市民への開放
利用方法の検討



展示コーナー イメージ



情報発信コーナー イメージ

機能③ まちづくり拠点機能

「緑と花と彫刻のまち」を
先導する市民集いの場

- 庁舎前広場
(憩いの広場、まちなかイベント広場)
- バス利用促進のための機能
- 飲食・休憩スペース
(気軽に立ち寄れる場所)



飲食コーナー イメージ



お祭り広場 イメージ

機能④ 防災機能

市民の安心・安全を支え続ける防災拠点

- 防災危機管理拠点機能を十分に発揮できる平面計画
- 司令塔としての機能を維持するための非常用発電設備
- 災害時の断水に備えた、耐震性貯留施設(上水・雨水)
- 電算室、発電機室等の上層階への設置
- 備蓄倉庫、仮眠室等の設置



災害対策本部 イメージ



会議室を災害対策本部に転用の事例

機能⑤ 執務機能

職員が快適で
効率的に働ける執務空間

- 組織変更に柔軟に対応できるオープンプローア等の検討
- ICT化の推進
- 情報セキュリティ強化
- 書庫、倉庫の適正配置



オープンプローアの執務室 イメージ

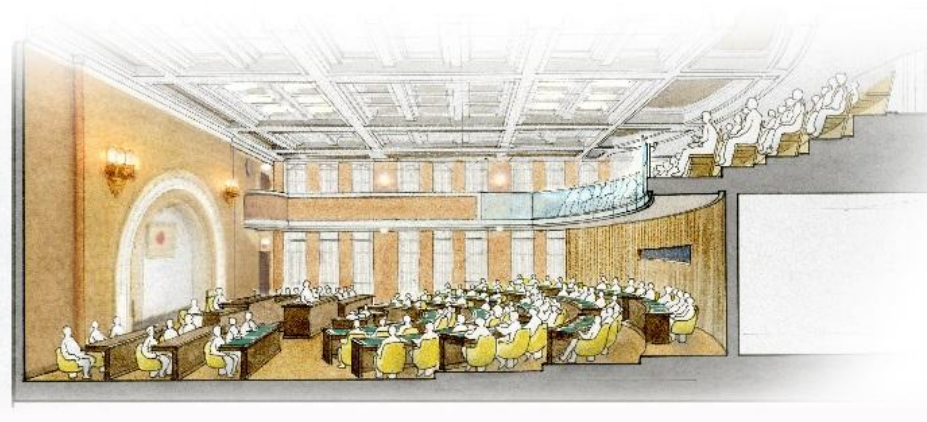


オープンプローアの執務室 イメージ

機能⑥ 議会機能

市民とつながる 「市民に開かれた議会」

- 利用しやすい傍聴席
(車いす用スペースの確保・
難聴者補聴システム等)
- 待合ロビーでの議会中継
- 議会図書室などの
市民利用拡大



傍聴しやすい議場 イメージ

新庁舎の規模

市役所機能のみ

① 実態調査に基づく規模算定

現庁舎における職員数や利用状況を踏まえ、適正な規模を算定。

23,779m²

② 規模圧縮のための検討

将来的な職員数の削減を踏まえ、窓口等の業務改善や事務の効率化を進めることを前提に規模を圧縮。

18,386m²

③ 竣工時点の配置人数の見直し

港町庁舎を新庁舎建設後も当面継続利用することとし、現本庁舎の配置人数のみを対象とし、規模を圧縮。

17,480m²

新庁舎の全体規模 : 約17,500m²

新庁舎の敷地と配置計画



市庁舎と
宇部税務署との
合築について、
国と合意



今後、配置計画
など、段階的に
国と協議を進め
検討する

概算事業費及び財源

本庁舎建設基金

平成9年設置

平成27年度末見込み

約36億6千万円

○庁舎建替え費用の概算

新築工事 面積 $17,500\text{m}^2$ × 想定単価45万円 = 約79億円

解体・外構・その他経費、消費税等 約24億円

約103億円

○財源

現在の建設基金 約37億円に
出来るだけ積み増しする

残額は、市債等充当

今後のスケジュール

平成28年

5月

6月

7月

8月

9月

基本計画策定作業

素案作成

パブリック
コメント

計画策定

市民説明会

- ・中央部
- ・西岐波
- ・厚南
- ・船木 4地区

基本設計